



令和元年 5月29日(水)
(2019年)

No. 14938 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

- ☆地域創生に取り組む地域の現状と課題(1)
(徳島県上勝町).....(1)

地域創生に取り組む地域の現状と課題(1)

(徳島県上勝町) (全3回)

東京理科大学専門職大学院生越研究室(平成30年度修了) 渡邊 厚良¹
(監修) 東京理科大学専門職大学院経営学研究科 教授 生越 由美

1 はじめに

今、日本では人口減少そして高齢化が進み、活気が喪失され産業も衰退するという悪循環を招いている。この悪循環は、各自治体の税収の減少を招き、行政サービスを低下させ、医療機関や教育機関の削減へと繋がり、これらの問題の連鎖で負のスパイラルに陥っている地域が多くある。

このような問題に対して自治体、NPO、グループなどの組織で、まちに活気を取り戻そうと取り組んでいる地域がある。本稿では、文献調査と実地調査をもとに、この問題に正面から取り組んでいる地域の現状と課題を考察する。

対象地域は、徳島県上勝町、徳島県神山町、島根県海士町とし、その1回目として徳島県上勝町を取



特許業務法人

創成国際特許事務所

SATO & ASSOCIATES

会長弁理士 佐藤 辰彦*

代表所長弁理士 加賀谷 剛

副所長弁理士 酒井 俊之

弁理士 吉田雅比呂

弁理士 渡辺 暁*

弁理士 千木良 崇

弁理士 破魔 沙織

弁理士 渡辺 良幸

弁理士 船本 康伸*

弁理士 岡崎 浩史

弁理士 野崎 俊剛*

弁理士 鈴木 俊二

弁理士 小森 岳史

弁理士 塩谷 享子

弁理士 草野千賀子

弁理士 松井 茂*

弁理士 山崎 隆*

弁理士 高野 信司

弁理士 宮尾 武孝*

弁理士 白形由美子*

弁理士 藤村 明彦

弁理士 徳川 和久*

弁理士 大澤 豊

弁理士 堀 進*

弁理士 大橋 勇

*付記弁理士(特定侵害訴訟代理)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目24番1号 西新宿三井ビル18階

TEL 03(5324)9810

FAX 03(5324)9820

URL:<http://www.sato-pat.co.jp>

E-mail:office@sato-pat.co.jp

り上げる。

2 徳島県上勝町

2-1 地理

徳島県上勝町は、徳島県の山間に位置する面積にして109.68平方キロメートルという四国で最も小さい町である。

図表1 徳島県上勝町地図²



85%が森林で残り15%もほとんどが急傾斜地であり住宅は標高100メートルから700メートルほどの間に、大小55の集落に分かれて点在している。

2-2 人口

人口は、1,545人(2015年総務省統計局：国勢調査)、65歳以上の人口が54%を占める高齢化の町である。1950年には6,356人、1975年には3,500人以上いた人口が、基幹産業であった農林業の衰退とともに、2015年まで全国平均を大幅に上回る減少率で毎年減少している。

2-3 ヒストリー

先述したように徳島県上勝町は、総面積の85%を森林が占めており、この森林が上勝町にとって重要な資源であり、林業は町の基幹産業であった。1961年から木材の輸入自由化が段階的に始まり、海外からの木材が大量に輸入され、植林した木が育たないうちに木材価格が暴落した。そのため、林業は壊滅的なまでに衰退し、間伐などの手入れが出来なくなり森林の荒廃が進んでいる。

2-4 地域の特徴

農業は、山の斜面を切り開いた棚田で行われた。

その一つ、「檜原の棚田」は「日本の棚田百選」に選ばれている。また、檜原だけでなく、町内全域の山という山の斜面に、見渡す限りの棚田が等高線を描くように連なっている。上勝町の棚田では、春から秋にかけては米、秋から翌春にかけては小麦や大麦のほかには大麦の一種である裸麦や、あるいは菜種を栽培する二毛作が行われていた。家の近くの畑では自家用の野菜に加え、柿やびわなどの果物のほか酢橘、ゆず。上勝町特産の柚香などの香酸柑橘類を植えていた。山に自生し、あるいは棚田や畑の畦などで栽培するお茶の葉からは、特産の阿波晩茶を作る。阿波晩茶は、葉肉が厚くなる7月を待って摘み取った茶葉を大きな釜で茹でて摺った後、桶に一週間以上漬け込んで乳酸発酵させ、天日で乾燥させた発酵茶である。お茶づくりの最盛期を迎える真夏になると、家々の庭先から茶葉を蒸す香り、お茶を摺る香り、天日干しする香りが立ち上る。その香りと風景は「日本のかおり風景百選」に選ばれている。

2-5 みかん栽培

戦後の食生活の欧米化によって食糧輸入が増大する一方、米の消費量は、減少していった。そのため、収益率の高いみかん栽培に1961年頃から切り替える農家が増えていった。当初はみかんの価格が高く、みかんさえ作っていればお金に困ることは無かったが、西日本全域にみかん栽培が急拡大したため、みかんは生産過剰になり、価格が低下し始め、1969年には全国的な大豊作により、価格が暴落した。

1981年の異常寒波で上勝町にあったみかん畑120ヘクタールの約8割が枯死し、みかん栽培は壊滅的な打撃を受けた。

2-6 営農指導員－横石知二氏

1979年徳島県農業大学校を卒業し、4月に上勝町農業協同組合へ営農指導員として入社した横石知二氏は、各農家を一軒一軒廻ってコミュニケーションをとろうとしていた。が、男は朝っぱらから大酒をあおり、女は陰で他人をそしり合う日々を過ごすどん底の町だった。

このみかん栽培の大打撃に対して、迅速な現金